



2022.12.01 第一刷
 [編集・発行] 合同会社流動商店
 [DTP デザイン] 三文字昌也・早川知里
 [会社情報] <https://ryudoshoten.tokyo/>
 [お問合せ] hello@ryudoshoten.tokyo

2022
 冬

【特集】祭を考える

この秋、流動商店は祭屋として各地を駆けまわっていました。今社員が〈祭〉に何を想うか、聞いてみました。▶次々頁

¥0
 TAKE FREE

「お店をつくるなんでもやさん」
 合同会社流動商店がお届けする最新情報
 RYUDOSHOTEN ISSUE

#002
 第二号

季刊流動商店

きかん
 りゅうどうしょうてん



クシヨシおよび制作・設営を担当した。今年例年よりも大規模な計画となり、埼玉県飯能市のメッツァピレッジと、東京都文京区の養源寺との2会場で開催となった。フィナンランドからアーティストを招聘し、養源寺の本堂にはグランドピアノを搬入。同時に30店舗ほどの出店者を呼ぶマルシェを開催し、コロナ禍の終わりを実感させる賑やかなフェスとなった。

根幹にあったコンセプトは「静寂の中で聞く音楽の祝祭」。フィナンランド在住のイラストレーター K A H O 氏と共に世界観を作り上げた。

OUR RECENT PROJECTS
JUHLA FESTIVAL 2022

クリエイティブディレクション・
 空間制作・設営

2022.10 埼玉県飯能市・東京都文京区

流動商店本社オフィスの近くに、「Juhla Tokyo」というお店がある。フィナンランドやエストニアの音楽に加え、地元「谷根干」の音楽や飲食物、そしてラジオ配信まで手がける多彩な店だ。店内空間の設計・施工は弊社が担当させていたのだが、Juhla Tokyo の店主・小川氏は実店舗の営業だけに飽き足らず、4年前に「音楽フェスをやりたい」と言い出した。お祭りごとでも大好きな我々としては乗らないわけにいかず、以来、「一緒にこのフェスを創り上げてきた。今年遂に5回目を迎えた「JUHLA FESTIVAL 2022」にも全面協力し、流動商店がクリエイティブ・空間のディレ

OUR RECENT PROJECTS

流動商店の最近のお仕事

本郷のギャラリー/オフィス 設計・施工 2021.12 東京都文京区

本郷三丁目の一角に、小さなシェアオフィスがある。空間リニューアルを依頼くださったのは、障害の有無を超えた場作りを手がける NPO 法人 Collable さん、そして空想地図作家「地理人」氏が率いる株式会社地理人研究所さん。決して広くはない賃貸マンションの一室を多用途に使いたいということで、一緒に空間のあり方を考えていった。オフィス、打ち合わせスペース、Collable さんの YouTube 配信スペース、そして空想地図の作品をたくさん擁する地理人氏のギャラリー——場

面ごとに適切に使い方を換えられるよう、家具の配置や照明の配置の自由度を高めていった。その他に問題になったのは、膨大にある両法人の書類や書籍のストック。壁一面に天井まで届く棚を据え付けることにより、巨大なストックスペースに全てを収納できるようにした。また、小上がり収納を作り、椅子やこたつスペースと兼ねることで空間の利用効率をアップ。あるときにはギャラリー、あるときにはオフィスという不思議な空間ができあがった。



本と暮らしのあるところ だいかい文庫

店舗デザイン・施工 2020.12- 兵庫県豊岡市

2020年の初頭、「ケア」と「まちづくり」の分野で活躍されている医師・守本陽一先生から「豊岡の商店街の一角に、本をテーマにした新しい拠点を作りたい」と相談を受けた。先生が目をつけていたのは、豊岡のメインストリート・大開通り沿いの路面に面した空き物件。既存の壁や天井、床材を撤去し、通りに向かって全面的に開口を開けて明るい店内を演出した。内装には、現地で手に入れた杉足場板を用い、壁一面の本棚、読書机、カウンター、そして店頭のベンチを組み上げた。杉の色合いと木目がそれぞれ楽しめる。

外装には、この物件に元々あった内装材を再利用した。レーザーカットの店舗ロゴを柔らかな照明で上から照らし、暗かった商店街にも明かりが落ちるようになった。

オープンから2年を迎える中で、守本先生をはじめとする運営メンバーの皆さんの力により、多くの人が利用し、シェアする図書館に育っている。そして今年、だいかい文庫は「2022年度グッドデザイン賞」を受賞！ 今後とも、素敵な場所として発展していくことを願っている。

GOOD DESIGN AWARD 2022



坂井市アンテナショップ 店舗デザイン 2022.11- 東京都品川区

福井県坂井市のアンテナショップの移転に伴い、店舗のデザインの設計依頼がきた。

以前より近所の人から、戸越銀座商店街のお店の一つとして親しまれ、特に坂井市産の野菜が人気で八百屋のような役割を担っていた。今回の移転に伴い、今までの小売り店の要素に加え、坂井市の食材を使った簡単な料理や福井のお酒を楽しむような飲食店機能を足し合わせ、今まで以上に交流を創り出し坂井市の魅力を発信できる施設になるよう設計した。

テナントは商店街の端に位置し、RC造低層ビルの1階、奥行きのある60㎡ほどのスケルトン状態で、地面から40cmほど上がったところに入口があり、非常に入りづらい造りであった。入

りづらさを解消するため、サッシの位置を30cm内部にスライドさせ踊り場を広く取り、片開きだった扉を自動ドアにした。入口側は物販スペースを設け、緩やかに繋がりがながら、奥は開けた飲食スペースとなるようプランニングし、商品棚やカウンターなどの什器で空間をコントロールした。什器の天板は人工大理石で設え、滑らかに繋がりを持たせながら奥に向かって連続している。これにより、ファサード側からも商品が見え、ディスプレイの面積を増やしながら、伸びやかなラインをつくることができた。天井には湾曲させたエキスパンドメタルを設え、天井裏から照射することで北陸の分厚い雲のような表情を持たせた。11月に着工し、4月28日にオープン予定だ。

設計協力 Hokamura Design
 安生仁構造設計事務所

施工 株式会社 TANK



流動商店 祭ファイル #1

銭湯山車巡行



数年前から文京区で減りゆく銭湯を調査・記録してきた流れで、2021年より「銭湯山車巡行」というプロジェクトが立ち上がっています。「今はなき銭湯を弔い、今を生きる銭湯を寿ぐ、銭湯のための祭りを」というテーマのもと、銭湯の廃材を使いお祭りの「山車」を制作し、銭湯のあるまちを巡行するというお祭りですが、流動商店からは発起人として三文字が、巡行手伝いとして中山・早川が参画しています。銭湯の日の前日、2022年10月9日に、文京区内を巡行。流動商店から最も近い「ふくの湯」さんや「朝日湯」さんの前を通り、3時間にわたって地域を練り歩きました。

流動商店 祭ファイル #2

台湾夜市遊戯場



三文字が手がける「台湾夜市遊戯場」プロジェクト。台湾の老若男女に愛されている「夜市」のゲームブースを日本各所でも再現・展開し、街中での「流動」的な楽しみを創り上げています。今年も2022年9月17日～18日に開かれた日本最大級の台湾カルチャーフェス TAIWAN PLUS に出店。上野公園の噴水広場に、台湾ローカルの非日常空間を創り、非常に多くの方々に楽しんでいただきました。さらに、2022年9月19日～25日と10月9日～10日には、台湾で有名な「誠品書店」の日本旗艦店「製品生活日本橋」でもポップアップ出店をさせていただきました。

流動商店 祭ファイル #3

六本木クロッシング2022展 市原えつこ「未来 SUSHI」技術協賛



流動商店、現代アート作品の空間演出・設計等の協力なども手掛けています。メディアアーティスト、妄想インベンターとして活躍される市原えつこ氏の新作「未来 SUSHI」において、空間演出と照明計画をサポートさせていただきました。お見逃しなく！六本木・森美術館にて：2022年12月1日～2023年3月26日 会期中無休

祭と流動商店

三文字昌也

流動商店は何をやる会社なのか。私三文字の行動の根幹には常に「祭り」があります。振り返れば、中高時代の三文字は文化祭を中心に生きていて、文化祭の装飾物や構造物、工作物、ゲーム、クリエイティブなどを年中考えて作っている生徒でした。よく考えれば、今と同じことをやっている……。祭りは、都市に生きる我々にとっての「非日常」ですが、その非日常の中には、「日常で見逃されているもの」——例えば人と人とのつながりだったり、地域のちょっとしたスポットだったり——を顕在化

させる力があります。京都の祇園祭のように有名な祭りではなくても、地域の小さなイベント、商店街のキャンペーン、ストリートライブでも、新しい発見や出会いが重なるもの。そういった小さな仕掛けを、まちの中で、少しずつでもたくさん作っていきたく思っています。とまあ難しいことを考えなくても、単純に、祭りは楽しい！というところで、流動商店は都市と建築と祭りをやる会社です、と言ってもいいのかもしれませんが。（写真は台湾・艋舺大拜拜）



浦安の三社祭

中山陽介

私の地元浦安には「浦安三社祭」がある。4年ごときに、オリンピックのある年の6月に開催される。浦安は小さい街で、チーバくんと言うとペロの部分に位置する。浦安市のほとんどが埋立地で、元町と呼ばれる埋立地以外の部分は市の四分の一程度である。三社祭はそんな小さな浦安市のほんの一部分、元町で行われる。面積は小さいながら、規模は大きく、同時に100基以上の神輿が担がれる。四年間溜めたエネルギーが一気に放出され、街中が熱気に包まれる。その熱気に触れるため遠方からも多くの人が訪れ、三社祭の期間はデイズニードの人密度を優に超える。初めて祭りに行ったのは14歳の時、私が浦安に引っ越した年であった。人だかり越しに神輿が激しく上下して、近づくと全身刺青の入った屈強な男女が大きな掛け声と共に立派な神輿を担いでいた。激しく、かっこいい姿を今も鮮明に思い出せる。



気性の荒い漁師町の祭りというだけあり、昔から喧嘩神輿や暴れ神輿と呼ばれていたようで、激しいエピソードがいくつも残っている。祭の寄付金が少ない家屋に神輿ごと突っ込み、土台に担ぎ棒を差し込みテコの原理で破壊したり、神輿間でのいざこぎにより、境川に架かる橋から相手の担ぎ手を投げ落としたりしたそうだが、荒れすぎたこともあり過去に何度か中止に追い込まれているが、形やルールを変えながら復活してきた。2020年、三社祭も例に洩れず COVID-19の影響を受け中止になった。祭りは2024年に8年溜めたエネルギーを放出する。夢の国とは一味違う浦安を是非体験してみたい。

祭の事件性について

早川知里



2022年10月31日 EXPO 最終日に開催された「海の家」でのクロージングパーティ

墨田区の木密地帯におけるまちなか芸術祭「すみだ向島 EXPO」は今年3年目の開催となった。出演作家や、住民の展示・企画が、10月いっぱい、街の様々な場所ですべて同時に実施されると、交換した上着の背中に「愛媛」と太い特攻服仕様の刺繍が入っていた。これは私にとっては相当衝撃的な体験だった。祭の参加者にとって結局強く印象に残ることは、そういった極私的な、事後的な瞬間だったりするのではないかと。そんな小さな事件によって、それぞれにとって街が急に特別な場所となっているんじゃないかと、EXPOで毎年感じさせられる。

ベネズエラのカーニバル（謝肉祭）

豊田健



ベネズエラの平原地帯の祝宴料理です。私は祭りの演奏家として出演した際に頂きました。グラスフェッドの赤身が強い牛をバラし2週間ほど熟成させる。骨付きのバラ肉を骨の上手く縫うように丸太に挿して薪炭混合の火で遠火で1日かけて焼く。揚げバナナを添えて。¡Buen provecho!

#02 Carne Criolla



豊田健 (流動商店共同代表)

とよげん シェフの祭料理